平成16年1月5日

株式会社トモグリーン・ケミカル

ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/

第６７号

1月・2月の管理ポイント

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。
昨年は、低温、長雨による影響で日照不足による生育不良やラージパッチなどの病害がダラダラ続いたシーズンでした。
また、雨が多かった年にも関わらず、台風後の高温によりグリーンにダメージを受けてしまったゴルフ場も多かったと思います。
やはり水管理をおろそかにするとこわいなぁーと思い知らされる一年でした。
今シーズンは気持ちも新たに、素晴らしいグリーン、素晴らしいコースを造っていきましょう‼
本号は、年初めでもありますので、今シーズンの**プライマーセレクト**による効率的な水管理をご提案させていただきます。

1~2月

乾燥が激しいので、グリーン表面が乾いた状態が続きます。
ほっておくと冬場でも芝生表面が撥水し、乾燥害の原因となります。
水をやりすぎると霜害、凍害になりますので、プライマーセレクトを処理し、少量散水での均一な浸透を実現させましょう。
使用量：1～2ml/㎡　散布水量：200ml～500ml/㎡　散布回数：1ヶ月～1ヶ月半に1回

3~5月

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです‼
グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え下層にある水分まで伸ばさせます。
プライマーセレクトによりマトリックスフローを形成した土壌では、表層を乾燥状態にしても、一度の潅水で均一に水が浸透しますから安心して灌漑管理をして頂けます。
散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に充分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなる。
使用量：1～2ml/㎡　散布水量：200ml～1L/㎡　散布回数：1ヶ月～1ヶ月半に1回

6~9月

6月～7月上旬は、梅雨の過湿状態を改善します。
又梅雨明け後は、グリーンが一気に高温･過湿状態となり、蒸れて病気や根腐れを引き起こすので、予めプライマーセレクト処理により余分な土壌水分を排除し、過湿状態を改善します。
8～9月は高温･乾燥が続くため、ドライスポットの予防のためプライマーセレクトを処理します。
使用量：1～2ml/㎡　散布水量：200ml～1L/㎡　散布回数：1ヶ月に1回

10~11月

春同様、芝生の生育期なので、表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え下層まで伸ばさせます。
使用量：1～2ml/㎡　散布水量：200ml～1L/㎡　散布回数：1ヶ月～1ヶ月半に1回

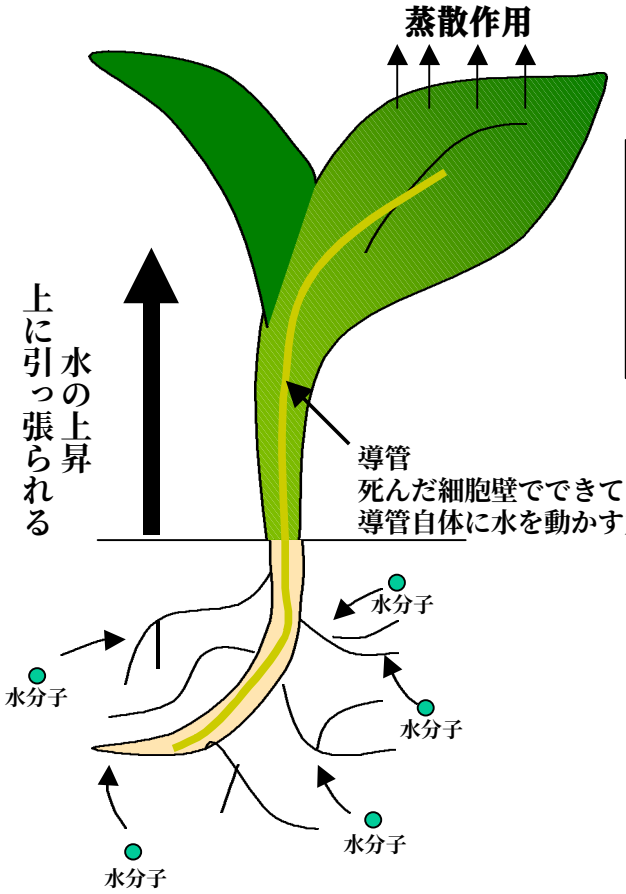
12月

1月、2月同様乾燥が激しいので、グリーン表面が乾いた状態が続きます。
プライマーセレクトを処理し、少量散水での均一な浸透を実現させましょう。
使用量：1～2ml/㎡　散布水量：200ml～500ml/㎡　散布回数：1ヶ月～1ヶ月半に1回

マメ知識

植物内の水の移動

根から吸収された水は、どうやって移動しているのでしょう



根から吸い上げられた水の約９９%は、導管を通って葉の気孔からそのまま大気へ逃げていきます。

植物の生命維持に使われる水は、1%程度にすぎない!!
この約1%の水が光合成や細胞に利用される

水が吸い上げられる理由(凝集力説)

土壌から根の導管内に入った水は、どうやって茎の導管を通って上昇するのでしょう

①蒸散作用によって葉の細胞(葉肉細胞)内の水分が減少する：細胞が収縮する

②収縮した葉の細胞(葉肉細胞)に葉の導管の水が入っていこうとする

③根の導管から葉の導管までは、1本につながっているので、葉の導管の水が葉肉細胞に入る際に引っ張られる力で、根の導管内の水が上昇する

④上から引っ張られる力で根の外の水が導管内に移動する